

30

国立公文書館内閣文庫所蔵の木活字版
『黄帝内経』について

— 呉悌本『靈枢』との比較 —

竹内 尚

日本鍼灸研究会

【緒言】

和刻本の『黄帝内経』には、寛文三年本・類経本・安政版などが知られるが、その他に、国立公文書館内閣文庫（以下、内閣文庫と略記）に所蔵される木活字本がある（請求番号300-151）。この本は、十二巻本『素問』『靈枢』の合刻で、無注でありながら、本文間に音釈を細字双行で挿入する体式が特徴的である。

これと同様の体式をとる版本には、明版の呉悌本と呉勉学本（『靈枢』のみ）が知られる。しかし、呉勉学本は『素問』が二十四巻本であり、十二巻本である『靈枢』も木活字本とは目録の体式が異なる。一方で、呉悌本は『素問』『靈枢』ともに十二巻本であることや、内題が相似することから、木活字本の底本は呉悌本ではないかと推察される。よって本発表では、木活字本『靈枢』について、呉悌本と比較校勘し、医経研究の一端とする。呉悌本は、『黄帝内経版本叢刊』（オリエント出版社、1993年）所収の宮内庁書陵部所蔵本の影印を用いた。

【木活字本『靈枢』の書誌】

十二巻、二冊。書型は縦28.2cm×横19.5cm、五針眼装。外題「靈枢 三（四）」と墨書。小口書「靈上（下）」。序目は、史崧序一葉、目録三葉。巻首に「黄帝素問靈枢卷之一」と題し、以下、本文。每半葉十一行、行二十字、小字双行。四周双辺無界、版心白口、上黒魚尾、魚尾下に「靈枢卷之幾、葉数」を刻す。内題は、巻一首、巻九尾、巻十首尾、十二首尾は「黄帝素問靈枢」、その他は「黄帝素問靈枢経」に作る。第一冊は、巻一から六の88葉（序目：4葉、巻一：16葉、巻二：14葉、巻三：14葉、巻四：12葉、巻五：14葉、巻六：14葉）、第二冊は、巻七から十二の78葉（巻七：12葉、巻八：12葉、巻九：13葉、巻十：14葉、巻十一：15葉、巻十二：12葉）より成る。

『医籍著録』は、『素問』単経の項に「活字板、医庠、欠一卷至四卷、又十二卷ニヨル」、『靈枢』十二巻本の項に「皇朝活字板、庠」と載せる。

【呉悌本『靈枢』の書誌】

十二巻、二冊。序目は、史崧序二葉、目録三葉。巻首に「黄帝素問靈枢経卷之一」と題し、以下、本文。每半葉十一行、行二十一字、小字双行。左右双辺有界、版心白口、上白魚尾、魚尾下に「靈枢卷幾葉数」を刻す。内題は、巻九尾、巻十首尾、巻十二首尾は「黄帝素問靈枢」に作り、巻五尾と巻八尾は内題を欠く。第一冊は、巻一から六の86葉（序目：5葉、巻一：15葉、巻二：14葉、巻三：14葉、巻四：12葉、巻五：13葉、巻六：13葉）、第二冊は、巻七から十二の74葉（巻七：12葉、巻八：11葉、巻九：13葉、巻十：13葉、巻十一：14葉、巻十二：11葉）より成る。

『医籍著録』は「此本十二巻本ニ据テ経文ヲ録出スルモノ、嘉靖本ナリ」、『経籍訪古志』は「係白文、蓋嘉靖間本」という。

【調査結果および考察】

今回は、両書の異同の概要を知るため、序目および巻一について校勘した。その結果、異字14箇所、字句の出入6箇所の異同が確認された。両書の異同の多くは、木活字本の誤植や欠落と思いが、呉悌本が「癲狂第二十三」（目-01b09）、「二原」（01-03b08）と誤るものを、それぞれ「癲狂第二十二」（目-01b09）、「十二原」（01-03b11）に改めるなど、校訂の形跡も伺える。また、異体字については、若干の相違はあるものの、概ね相似している。

以上の通り、両書の異同は少なくはなく、また行格も異なることから、その関連性について明確になったとは言い難い。今後は、全編に涉って詳細な校勘を行い、両書の関係性をより明らかにしたいと考えている。